

洪水被害など、各地で自然災害が相次いで発生しています。相次ぐ自然災害への備えと復興支援や復興ボランティアの活躍をとおして、防災教育と復興教育について考えます。震災直後から継続してとりくまれている震災復興や防災教育を共有し、風化と防災・減災教育の現状について話し合い、今後のとりくむべき課題と方向性を探ります。

復興・防災教育について多くの現状を共有し、学び合いながら今後の方向性を考えていきたいと思います。

◎推進委員長

千葉 伸武（杜陵高校単位制）



教科別分科会

11. 日本語教育分科会

◎共同研究者、共同討議者紹介

共同研究者：清田 徹さん（元高教組組合員）
嶺岸 玲子さん（盛岡大学文学部）

◎今年の討議の柱

- ①書く力をどう考えるか。
- ②読み解く力をどう考えるか。
- ③教材研究と授業計画。
- ④高校における音読指導。
- ⑤現代詩の授業で何を教えるか。

◎分科会アピール

昨年も例年どおり、参加した仲間間で活発な話し合いを持つことができました。改めまして感謝を申し上げます。共同研究者の方からも現場とは異なる視点から、具体的にプリントの作成や発問のしかたにいたるまで、多くの有益な示唆を得ることができました。

お忙しい中とは思いますが、昨年一昨年と参加した人はもちろん、ここ最近足が遠のいていく人も、どうか参加を前向きに検討いただければと思っております。おあいできることを、推進委員全員心待ちにしております。

◎推進委員長

山中 基雅（花巻南高校）

12. 社会科教育分科会

◎共同研究者、共同討議者紹介

共同研究者：中島 一さん（歴史教育者協議会）

◎今年の討議の柱

- ①「楽しい」「わかる」「考える」授業をどのように実践したか。
- ② 地域に根ざした教材の作成や実践をどのようにすすめたか。
- ③ 社会科教育を通して21世紀の現代における、あるべき歴史認識・社会認識を育て、将来の展望をどのようにひらくか。
- ④ 現在の危機的な政治・社会状況における社会科教育の果たすべき意義

◎分科会アピール

昨年度は、残念なことに発表者と推進委員以外の一般の討議者が参加者ゼロでした。組合の教研というと堅苦しく考えている組合員が多いと思えます。社会科分科会は「来る者は拒まず、去る者は追わず」のスタンスで毎年少人数でも来てみようかという人たちで大変有意義な分科会を実施してきたという自負がありましたが、今年度も一般討議者がゼロという状態が続くのであれば、悲しいことですが実施そのものを考えたいと思っています。本来組合の社会科分科会は、誰もが気兼ねなく、ざっくばらんに普段